

後発医薬品の使用促進策の影響 及び実施状況調査報告書(案) ＜概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 平成30年度診療報酬改定で実施された後発医薬品の使用促進策により、保険薬局における一般名処方の記載された処方箋の受付状況、後発医薬品の調剤状況や備蓄状況、保険医療機関における一般名処方の実施状況、後発医薬品の使用状況や医師の処方がどのように変化したかを調査するとともに、医師、薬剤師及び患者の後発医薬品に対する意識について調査を行い、改定の結果検証を行うことを目的とする。

2 調査の対象及び調査方法

(1) 施設調査

全国の施設の中から無作為に抽出した保険薬局1,500施設、診療所1,500施設、病院1,000施設に対し、平成30年10月に調査票を配布。

(2) 医師調査

調査対象となった病院で外来診療を担当する、診療科の異なる2名の医師を調査対象とし、病院を通じて調査票を配布。

(3) 患者調査

① 郵送調査

調査対象となった保険薬局において、調査期間中に来局した患者(1施設につき最大2名)を調査対象とし、平成30年10月に対象施設を通じて調査票を配布し、患者から郵送により直接回収。

② インターネット調査

直近1か月間に、保険薬局に処方せんを持って来局した患者1,000人程度を調査対象とし、インターネットを用いた調査を実施。

調査の概要②

3 回収の状況

- 保険薬局調査の有効回答数は744件、有効回答率は49.6%であった。
- 診療所調査の有効回答数(施設数)は659件、有効回答率は43.0%であった。
- 病院調査の有効回答数(施設数)は318件、有効回答率は31.8%であった。また、医師調査の有効回答数は498人であった。
- 患者調査の有効回答数は、郵送調査は931人、WEB調査が1,000人であった。

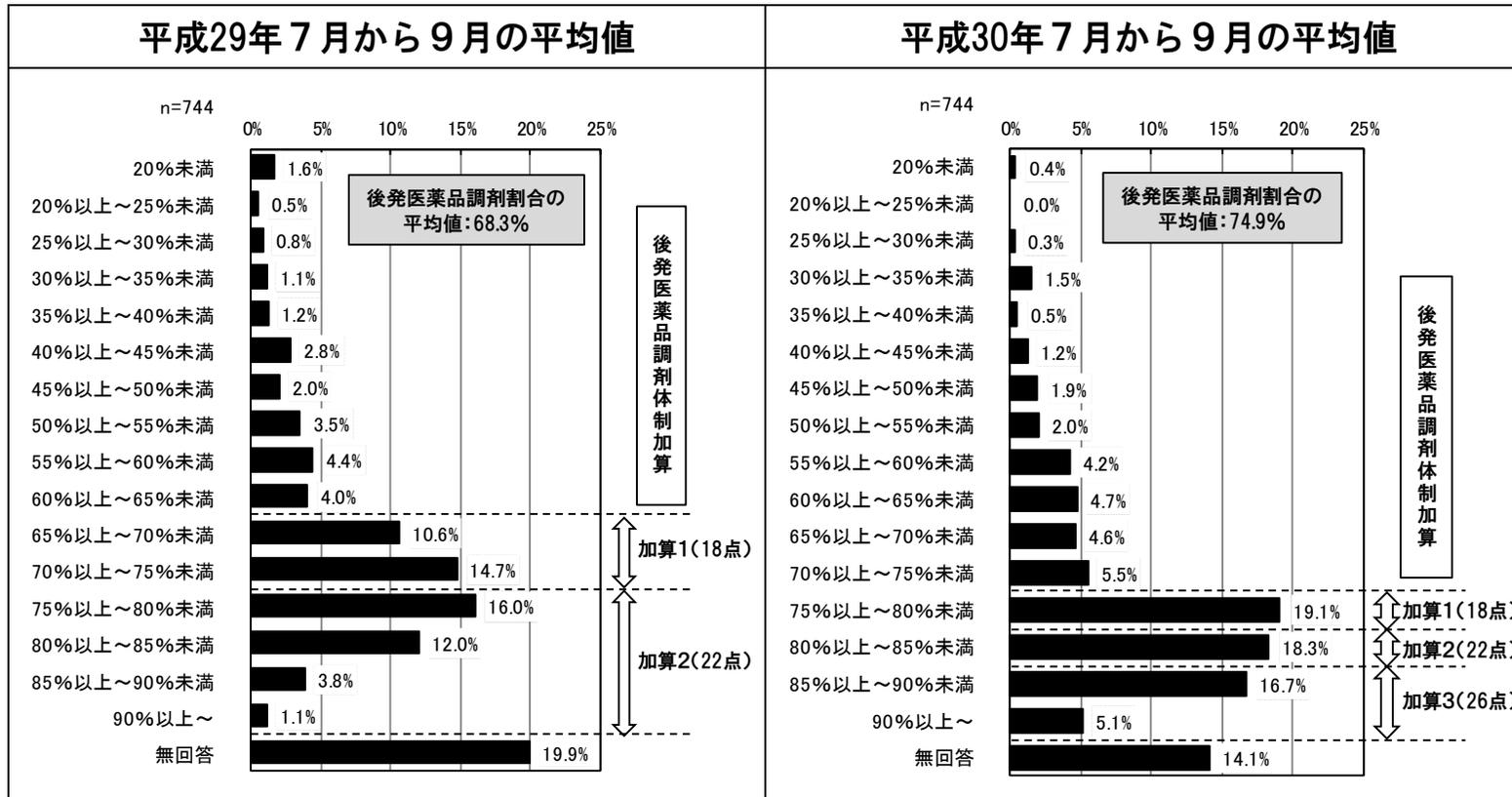
| 調査対象 | 施設数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|-----------|-------|----------|-------|
| 保険薬局 | 1,500 | 744(施設) | 49.6% |
| 診療所 | 1,500 | 659(施設) | 43.0% |
| 病院 | 1,000 | 318(施設) | 31.8% |
| 医師 | — | 498(人) | — |
| 患者(郵送調査) | — | 931(人) | — |
| 患者(WEB調査) | — | 1,000(人) | — |

施設調査(保険薬局)の結果①

<後発医薬品調剤割合>(報告書p27)

- 薬局における後発医薬品の使用割合は68.3%から74.9%に6.6ポイント増加した。
- 現在の加算対象の下限である使用割合75%以上の薬局の割合は32.9%から59.2%まで26.3ポイント増加した。
- 「75%以上～80%未満」、「80%以上～85%未満」、「85%以上～90%未満」は前年よりもそれぞれ3.1ポイント、6.3ポイント、12.9ポイント高かった。

図表 27 (参考)後発医薬品調剤割合と後発医薬品調剤体制加算の算定基準との関係



施設調査(保険薬局)の結果②

＜取り扱い処方箋の状況＞(報告書p32)

- 一般名で処方された医薬品の品目数の割合は、34.9%から43.3%に8.4ポイント増加した。
- 先発医薬品(準先発品)名、後発医薬品名で処方された医薬品であり、かつ変更不可となっている医薬品の品目数の割合はそれぞれ、6.1%、0.6%であった。

図表 34 1週間の取り扱い処方箋に記載された医薬品の品目数と対応状況別品目数(抜粋)
(392施設、総処方箋97,392枚に記載された254,300品目数)

| | (今回調査) | | (参考) |
|--|---------|--------|--------|
| | 品目数 | 割合 | 前回調査 |
| ①一般名で処方された医薬品の品目数 | 110,116 | 43.3% | 34.9% |
| ④先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品の品目数 | 106,003 | 41.7% | 49.4% |
| ⑤'変更不可'となっている医薬品の品目数 | 15,418 | 6.1% | 8.1% |
| ⑤'変更不可'となっていない医薬品の品目数 | 90,585 | 35.6% | 41.3% |
| ⑪後発医薬品名で処方された医薬品の品目数 | 27,825 | 10.9% | 11.2% |
| ⑫'変更不可'となっている医薬品の品目数 | 1,615 | 0.6% | 1.0% |
| ⑫'変更不可'となっていない医薬品の品目数 | 26,210 | 10.3% | 10.1% |
| ⑬その他(漢方製剤など、先発医薬品・準先発品・後発医薬品のいずれにも該当しない医薬品)の品目名で処方された医薬品の品目数 | 10,356 | 4.1% | 4.5% |
| ⑭処方箋に記載された医薬品の品目数の合計 | 254,300 | 100.0% | 100.0% |

(注)・平成30年9月7日(金)～9月13日(木)に取り扱った処方箋枚数及び品目数内訳について回答があった施設を集計対象とした。
 ・前回調査分は平成29年7月18日(火)～7月24日(月)を調査期間とし、514施設、総処方箋160,931枚に記載された418,522品目数の内訳
 ・⑫'は、⑪(後発医薬品名で処方された医薬品の品目数)から⑫('変更不可'となっている医薬品の品目数)を控除して算出した。

施設調査(保険薬局)の結果③

＜医薬品の備蓄状況等＞（報告書p43）

- 医薬品全品目の廃棄額は、平成29年度は平均19,230.6円、平成30年度は平均21,808.3円で、13.4%の増加率であった。
- 一方、後発医薬品の廃棄額は、平成29年度は平均3,389.9円、平成30年度は平均4,304.4円で、27.0%の増加率であった。

図表 54 医薬品の在庫金額及び廃棄額(平成29、30年度の10月1日時点または1か月分、n=232)

| | | | 平成29年10月1日時点(①)または平成29年度1か月分(②③) | 平成30年10月1日時点(①)または平成30年度4月～6月の1か月分(②③) | 増加率 |
|--------|----------|------|----------------------------------|--|-------|
| ① 在庫金額 | 医薬品全品目 | 平均値 | 10,195,176.2 | 9,726,233.2 | -4.6% |
| | | 標準偏差 | 17,664,654.0 | 12,656,396.8 | |
| | | 中央値 | 6,309,775.5 | 6,625,066.0 | |
| | うち、後発医薬品 | 平均値 | 1,725,839.0 | 1,738,066.2 | 0.7% |
| | | 標準偏差 | 2,444,327.5 | 1,869,683.8 | |
| | | 中央値 | 1,016,479.0 | 1,203,055.0 | |
| ② 購入金額 | 医薬品全品目 | 平均値 | 7,962,865.4 | 8,189,624.5 | 2.8% |
| | | 標準偏差 | 9,572,047.7 | 9,356,274.1 | |
| | | 中央値 | 5,479,708.3 | 5,658,074.1 | |
| | うち、後発医薬品 | 平均値 | 1,410,510.1 | 1,578,495.0 | 11.9% |
| | | 標準偏差 | 1,595,323.6 | 1,737,657.7 | |
| | | 中央値 | 961,540.4 | 1,079,686.2 | |
| ③ 廃棄額 | 医薬品全品目 | 平均値 | 19,230.6 | 21,808.3 | 13.4% |
| | | 標準偏差 | 25,138.3 | 34,765.5 | |
| | | 中央値 | 9,592.3 | 10,822.1 | |
| | うち、後発医薬品 | 平均値 | 3,389.9 | 4,304.4 | 27.0% |
| | | 標準偏差 | 5,964.2 | 12,097.9 | |
| | | 中央値 | 1,447.5 | 1,615.8 | |

(注1)「全体」について医薬品の備蓄品目数(バイオ後続品含む)、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった232施設を集計対象とした。

(注2)薬価改定の影響は考慮していない

施設調査(保険薬局)の結果④

＜医薬品の備蓄品目数＞(報告書p40)

後発医薬品の備蓄品目数は平均329.7品目から平均363.2品目に増加した。

図表 47 医薬品の備蓄品目数(平成30年10月)(n=232) (単位:品目)

| | ①全医薬品 | | | ②うち後発医薬品 | | | 平均値 ②÷① |
|-----|--------|-------|--------|----------|-------|-------|------------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 | |
| 内服薬 | 893.3 | 388.3 | 941.5 | 304.7 | 149.8 | 292.5 | 34.1% |
| 外用薬 | 219.6 | 117.1 | 218 | 57.0 | 37.2 | 50.5 | 25.9% |
| 注射薬 | 14.1 | 29.9 | 10 | 1.5 | 6.0 | 1 | 10.7% |
| 合計 | 1127.0 | 484.2 | 1209.5 | 363.2 | 176.8 | 345.5 | 32.2% |

(注) 医薬品の備蓄品目数(バイオ後続品含む)、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった232施設を集計対象とした。

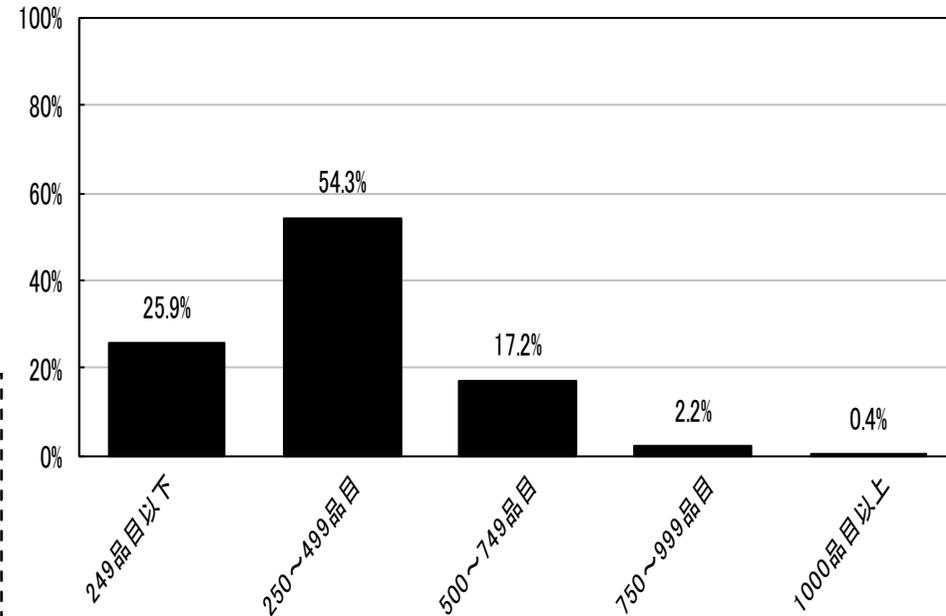
(参考) 平成29年度調査(抜粋)

医薬品の備蓄品目数(平成29年6月)(n=396) (単位:品目)

| | ①全医薬品 | | | ②うち後発医薬品 | | | 平均値 ②÷① |
|-----|--------|-------|--------|----------|-------|-------|------------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 | |
| 内服薬 | 851.0 | 419.7 | 855.0 | 276.1 | 171.5 | 241.5 | 32.4% |
| 外用薬 | 211.5 | 128.7 | 192.0 | 52.7 | 42.6 | 41.0 | 24.9% |
| 注射薬 | 11.5 | 18.5 | 8.0 | 0.9 | 3.2 | 0.0 | 7.6% |
| 合計 | 1074.0 | 537.8 | 1084.5 | 329.7 | 203.4 | 286.5 | 30.7% |

(注) 医薬品の備蓄品目数、在庫金額、購入金額、廃棄額の全ての項目について回答のあった396施設を集計対象とした。

図表 48 後発医薬品の備蓄品目数の分布(n=232)

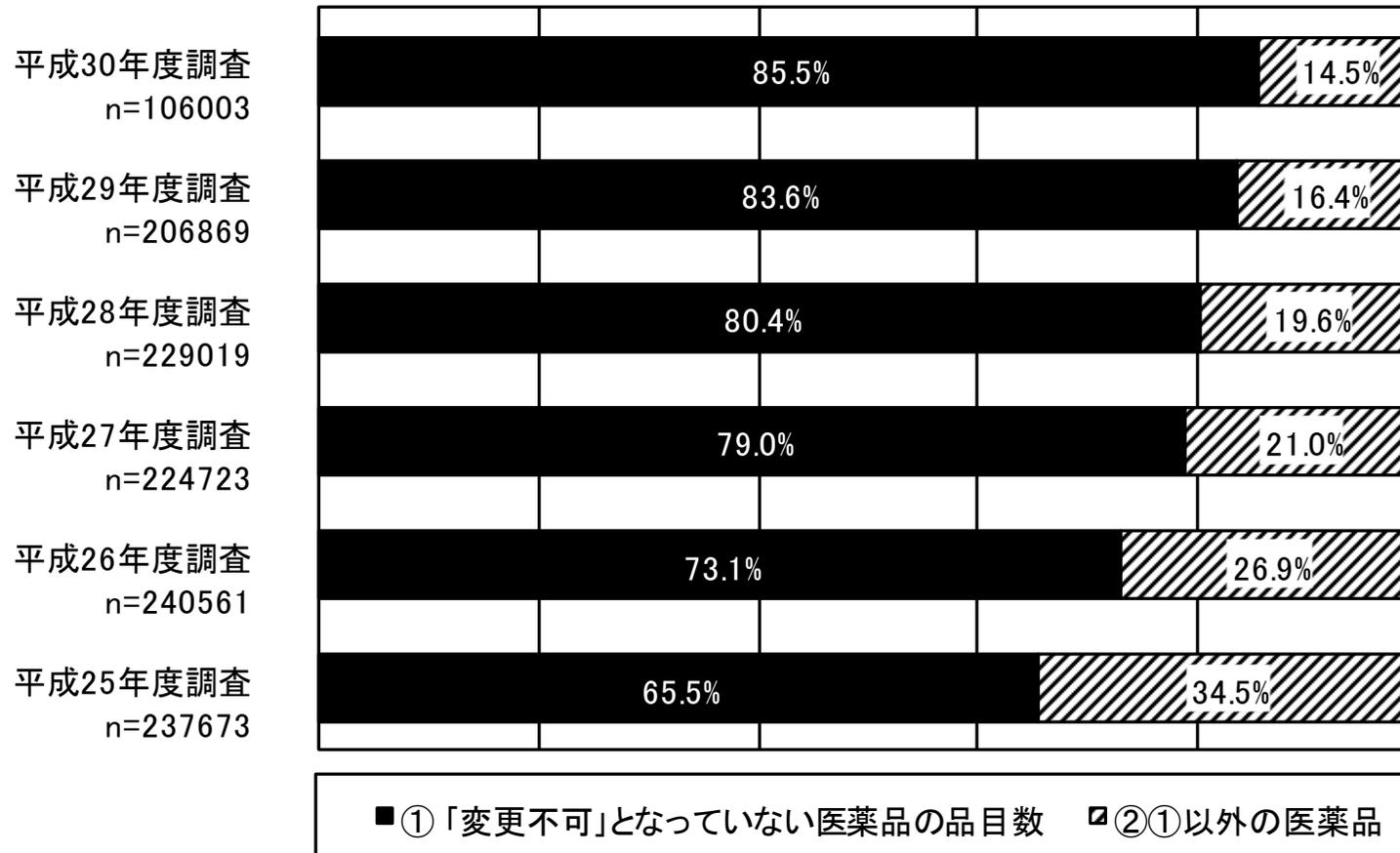


施設調査(保険薬局)の結果⑤

＜先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞(報告書p34)

先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品のうち、「変更不可」となっている割合は14.5%であった(昨年度16.4%)。

図表 37 先発医薬品(準先発品)名で処方された医薬品における「変更不可」の状況

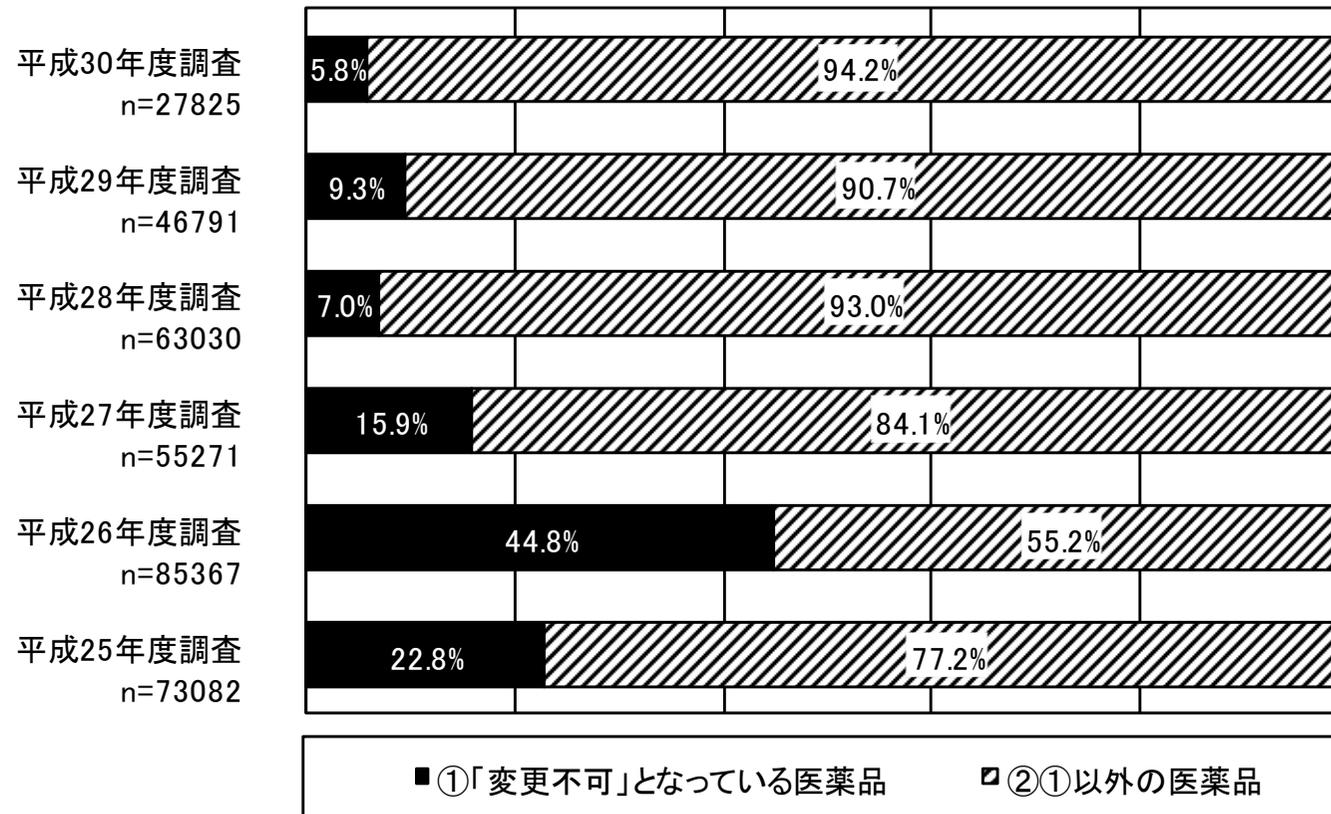


施設調査(保険薬局)の結果⑥

＜後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況＞（報告書p37）

後発医薬品名で処方された医薬品のうち、「変更不可」となっている割合は5.8%であった（昨年度9.3%）。

図表 42 後発医薬品名で処方された医薬品における「変更不可」の状況

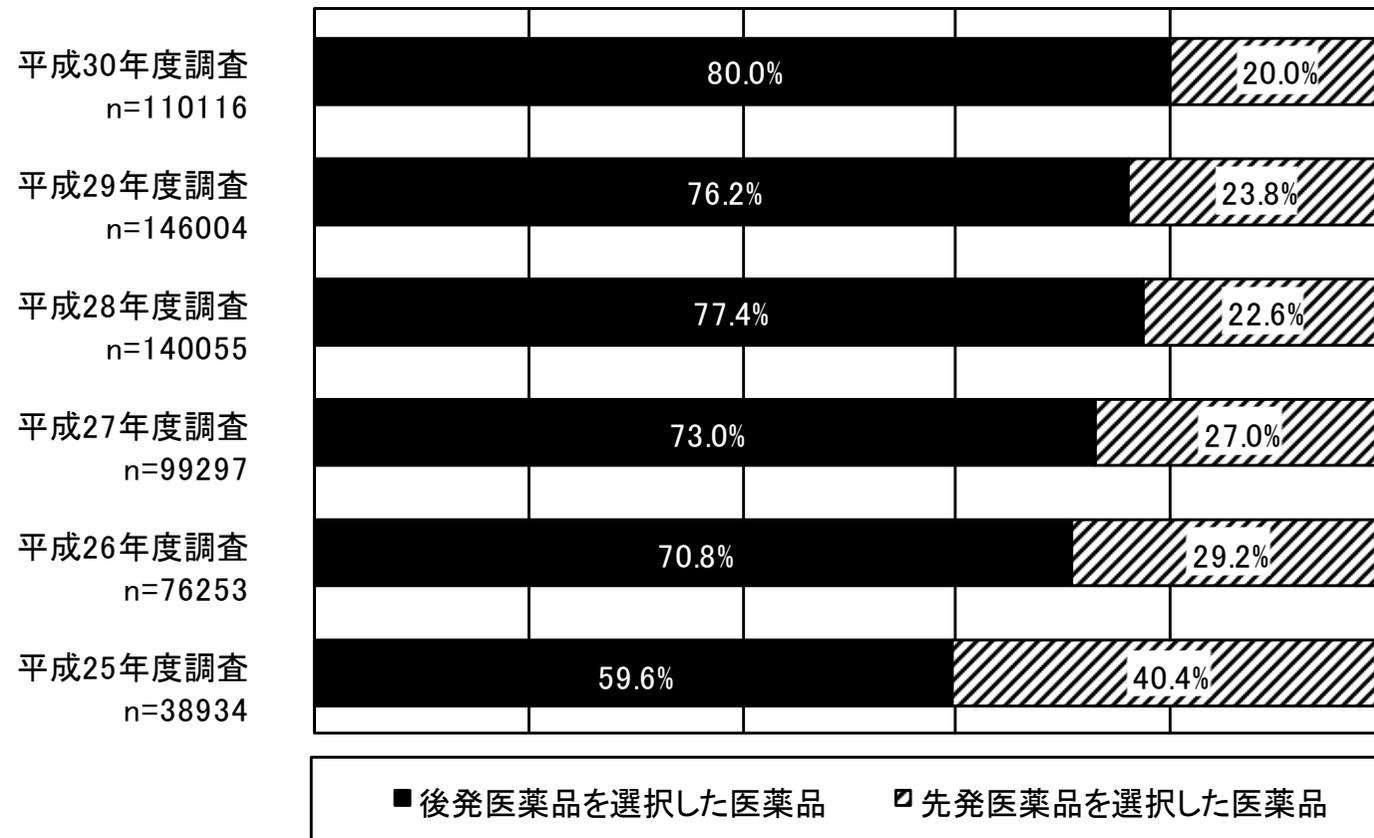


施設調査(保険薬局)の結果⑦

＜一般名で処方された医薬品における後発医薬品を選択した割合＞(報告書p33)

一般名で処方された医薬品のうち、薬局で後発医薬品を調剤した割合は80.0%であった。
(昨年度76.2%)

図表 36 一般名で処方された医薬品における、後発医薬品の調剤状況



(注)「先発医薬品」には、準先発品も含まれる。

施設調査(保険薬局)の結果⑧

＜医薬品の備蓄品目数＞(報告書p41)

- 29.9%の薬局でバイオ後続品を備蓄していた。
- バイオ後続品を備蓄する薬局では平均1.2品目を備蓄していた。

図表 49 バイオ後続品の備蓄品目数(n=588)

| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|----------------|-----|------|-----|
| バイオ後続品の品目数(品目) | 0.4 | 0.6 | 0 |

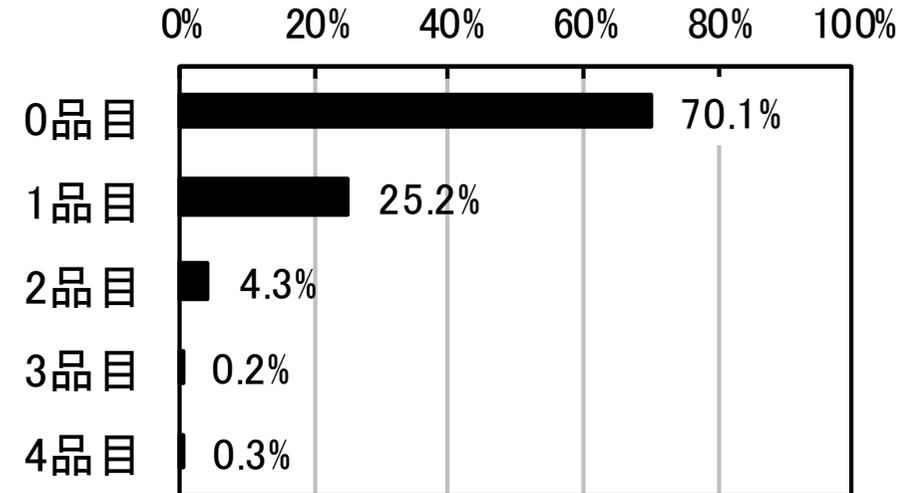
(注)バイオ後続品の備蓄品目数について回答のあった588施設を集計対象とした。

(参考)平成29年度調査

| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|----------------|------|------|-----|
| バイオ後続品の品目数(品目) | 0.33 | 0.74 | 0 |

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について回答のあった460施設を集計対象とした。

図表 50 薬局におけるバイオ後続品の備蓄品目数の分布(n=588)



図表 51 バイオ後続品の備蓄品目数(1品目以上の備蓄がある薬局に限定:n=176)

| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|----------------|-----|------|-----|
| バイオ後続品の品目数(品目) | 1.2 | 0.5 | 1 |

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について1品目以上であると回答のあった176施設を集計対象とした。

図表 52 1つの先発医薬品(同一規格)に対する後発医薬品の平均備蓄品目数

| | 施設数(件) | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|-------------------------------|--------|-----|------|-----|
| 一つの先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数(品目) | 633 | 1.2 | 1.2 | 1 |

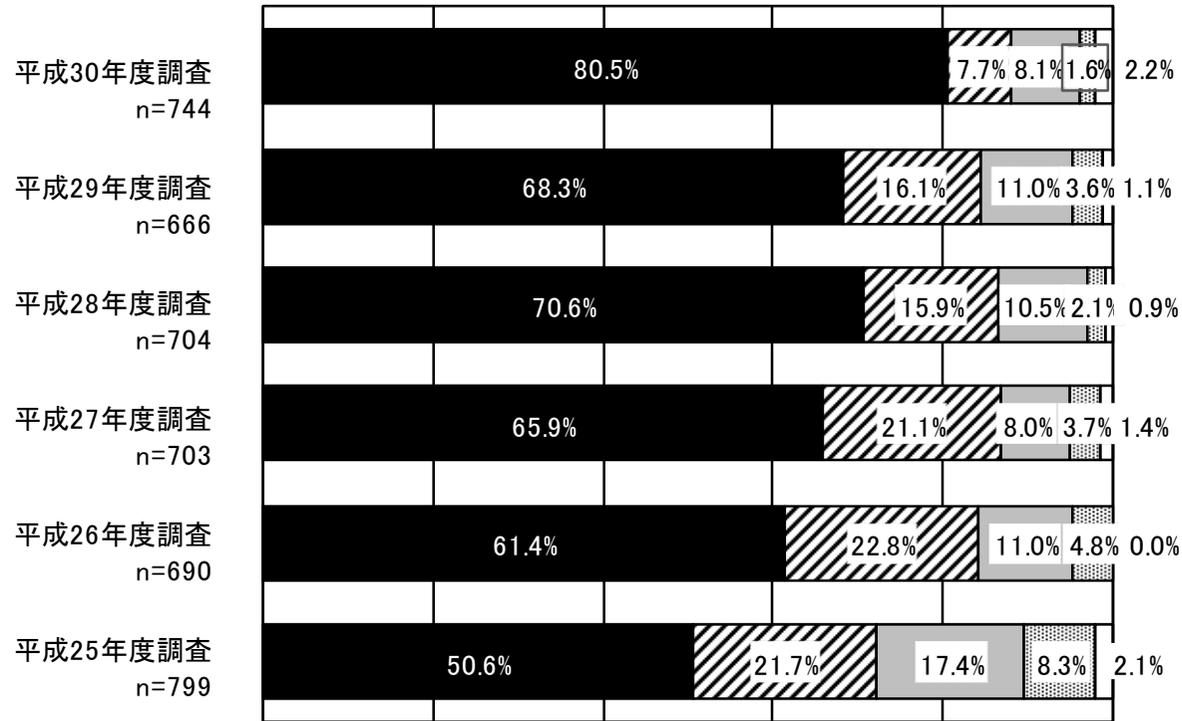
(注)1つの先発医薬品に対する後発医薬品の平均備蓄品目数について回答のあった633施設を集計対象とした。

施設調査(保険薬局)の結果⑨

＜後発医薬品の調剤に関する考え①＞（報告書p48）

後発医薬品の調剤に関する考えについてみると、「全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」が80.5%で最も多く、次いで「患者によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」が8.1%であった。

図表 58 後発医薬品の調剤に関する考え(単数回答)



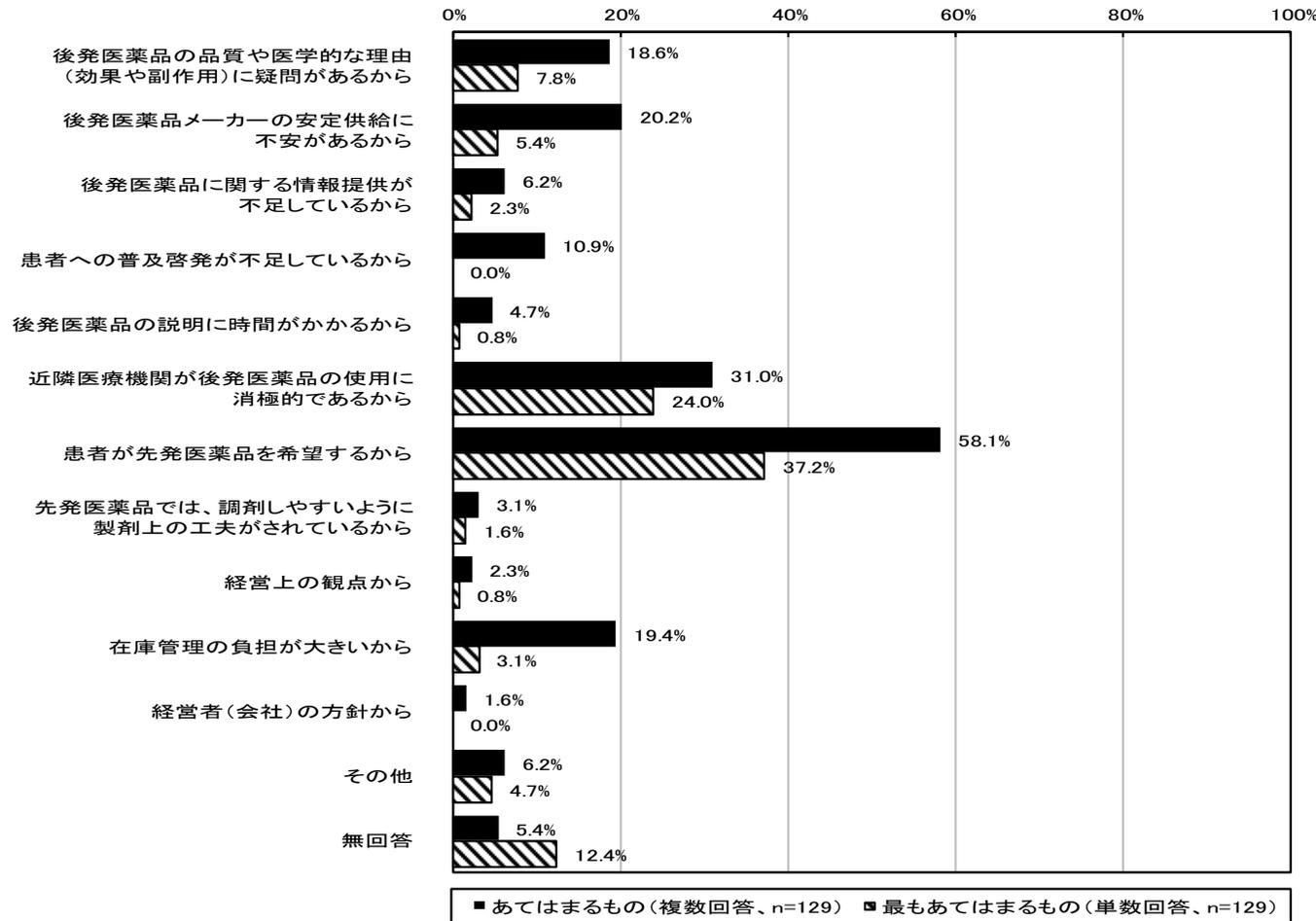
- 全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- ▨ 薬の種類によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- ▨ 患者によって、後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる
- ▨ 後発医薬品の説明・調剤に積極的には取り組んでいない
- 無回答

施設調査(保険薬局)の結果⑩

<後発医薬品の調剤に関する考え②> (報告書p50)

後発医薬品をあまり積極的には調剤しない場合の理由として、「患者が先発医薬品を希望するから」が58.1%で最も多く、次いで「近隣医療機関が後発医薬品の使用に消極的であるから」(31.0%)、「後発医薬品メーカーの安定供給に不安があるから」(20.2%)、「在庫管理の負担が大きいから」(19.4%)となった。

図表 62 あまり積極的には調剤しない場合の理由
(「全般的に、積極的に後発医薬品の説明をして調剤するように取り組んでいる」と回答した薬局以外の薬局)



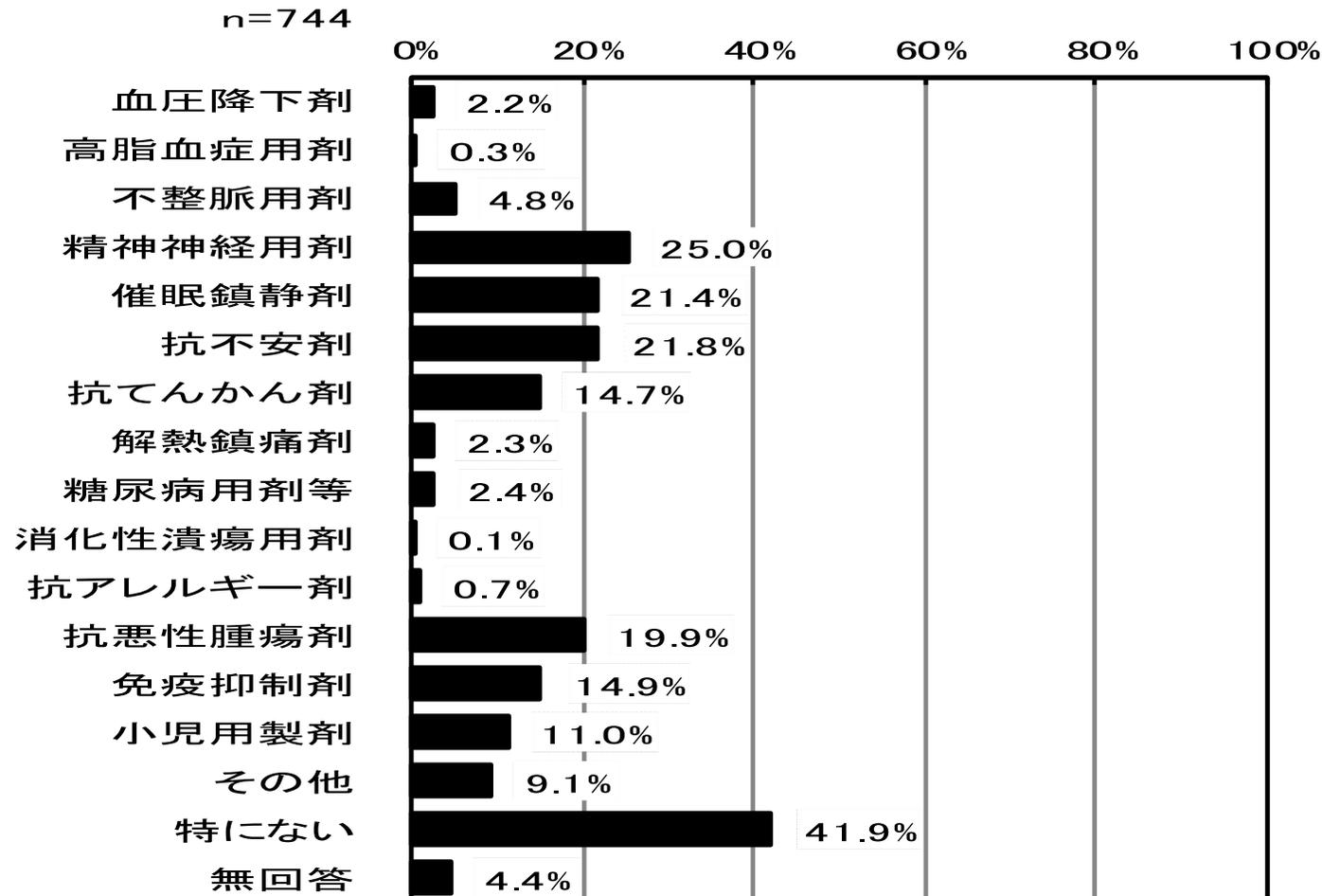
- (注)「後発医薬品に関する情報提供が不足しているから」の回答者が挙げた不足している情報のうち主なものは以下の通り。
- ・混合可変について。
 - ・市販後の実臨床で先発品との比較データ。
- (注)「経営上の観点から」の回答者が挙げた内容のうち、主なものは以下の通り。
- ・利益が減る。
- (注)「経営者(会社)の方針から」の回答者が挙げた内容のうち、主なものは以下の通り。
- ・すぐ在庫しないため急配ができない。
 - ・開設者からの指示。
- (注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。
- ・服用しやすい剤型がない。
 - ・外用剤は使用感が異なるため。
 - ・薬価差があまりないこと。
 - ・精神科の患者だから。

施設調査(保険薬局)の結果⑪

＜後発医薬品の調剤に関する考え③＞(報告書p55)

後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の種類として回答されたもののうち最も多かったのは「精神神経用剤」(25.0%)であり、次いで「抗不安剤」(21.8%)、「催眠鎮静剤」(21.4%)、「抗悪性腫瘍剤」(19.9%)、「免疫抑制剤」(14.9%)、「抗てんかん剤」(14.7%)であった。

図表 66 後発医薬品を積極的に調剤していない・調剤しにくい医薬品の種類(剤形を除く、複数回答)



(注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

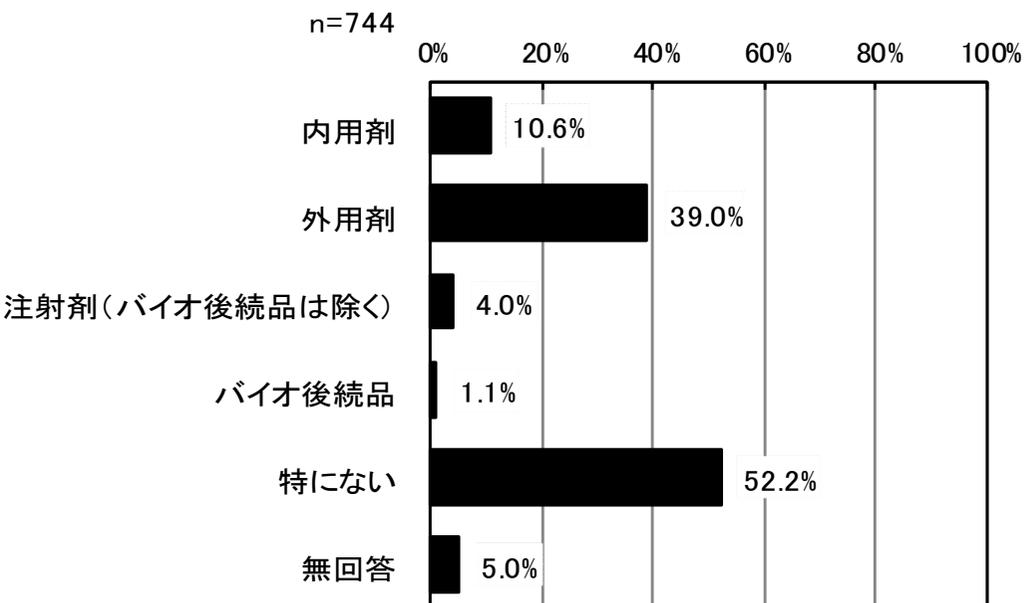
・気管支拡張剤、ステロイド軟膏及びクリーム、下剤、ホルモン剤、皮膚病薬、麻薬、鎮痛剤(経皮用)、テオフィリン製剤

施設調査(保険薬局)の結果⑫

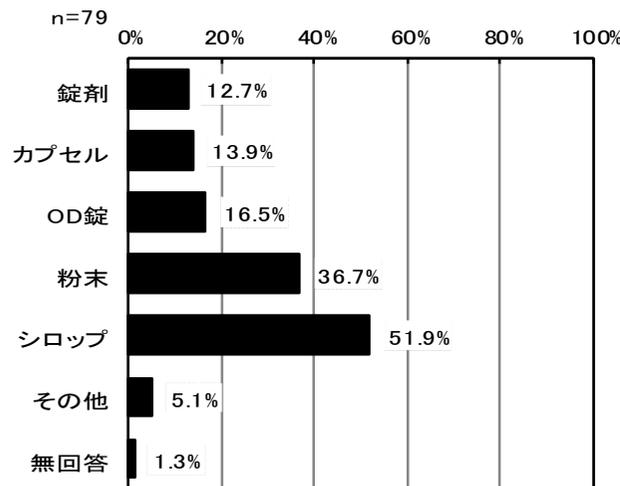
＜後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形等＞（報告書p58）

後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形を尋ねたところ、最も多かったのは、「外用剤」で39.0%であった。次いで「内用剤」(10.6%)、「注射剤(バイオ後続品は除く)」(4.0%)であった。内用剤では「シロップ」(51.9%)が、外用剤では「貼付薬」(79.0%)が最も多かった。

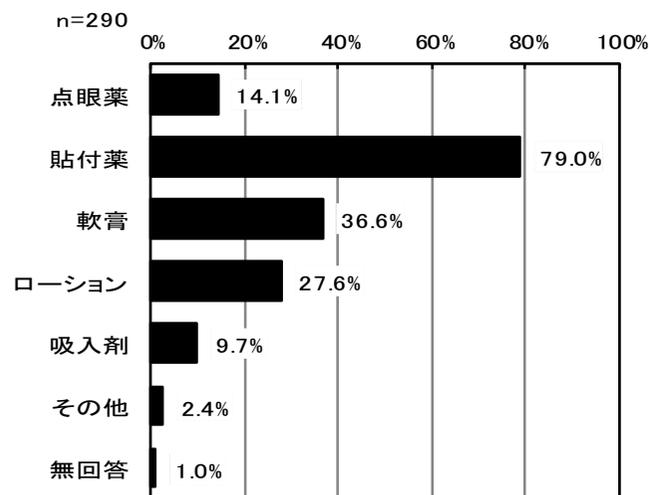
図表70 後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい医薬品の剤形(複数回答)



図表71 内用剤の内訳(複数回答、「内用剤」を回答した施設)



図表72 外用剤の内訳(複数回答、「外用剤」を回答した施設)



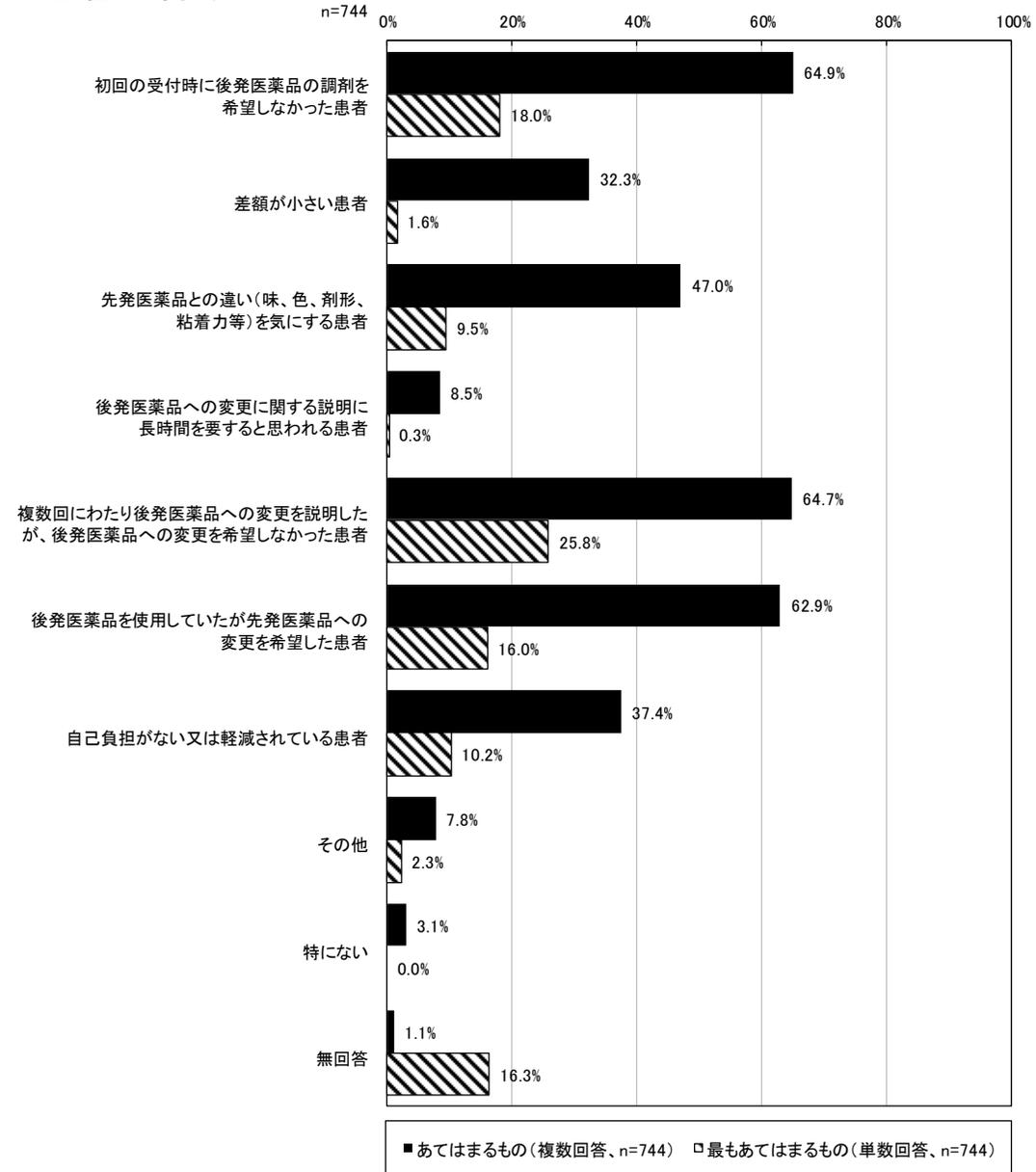
(注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。
・点鼻薬、クリーム

施設調査(保険薬局)の結果⑬

<後発医薬品の調剤に関する考え④> (報告書p61)

後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい患者の特徴としてあてはまるもの(複数回答)をみると、「初回の受付時に後発医薬品の調剤を希望しなかった患者」が64.9%で最も多く、次いで「複数回にわたり後発医薬品への変更を説明したが、後発医薬品への変更を希望しなかった患者」(64.7%)であった。

図表 76 後発医薬品を積極的には調剤していない・調剤しにくい患者の特徴



(注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

- ・精神科受診患者
- ・過去に副作用を経験した患者
- ・効果を疑問視している患者
- ・認知症等で、薬品名やデザイン変更により服薬間違いの生じる可能性のある患者
- ・公費の患者

施設調査(医療機関)の結果①

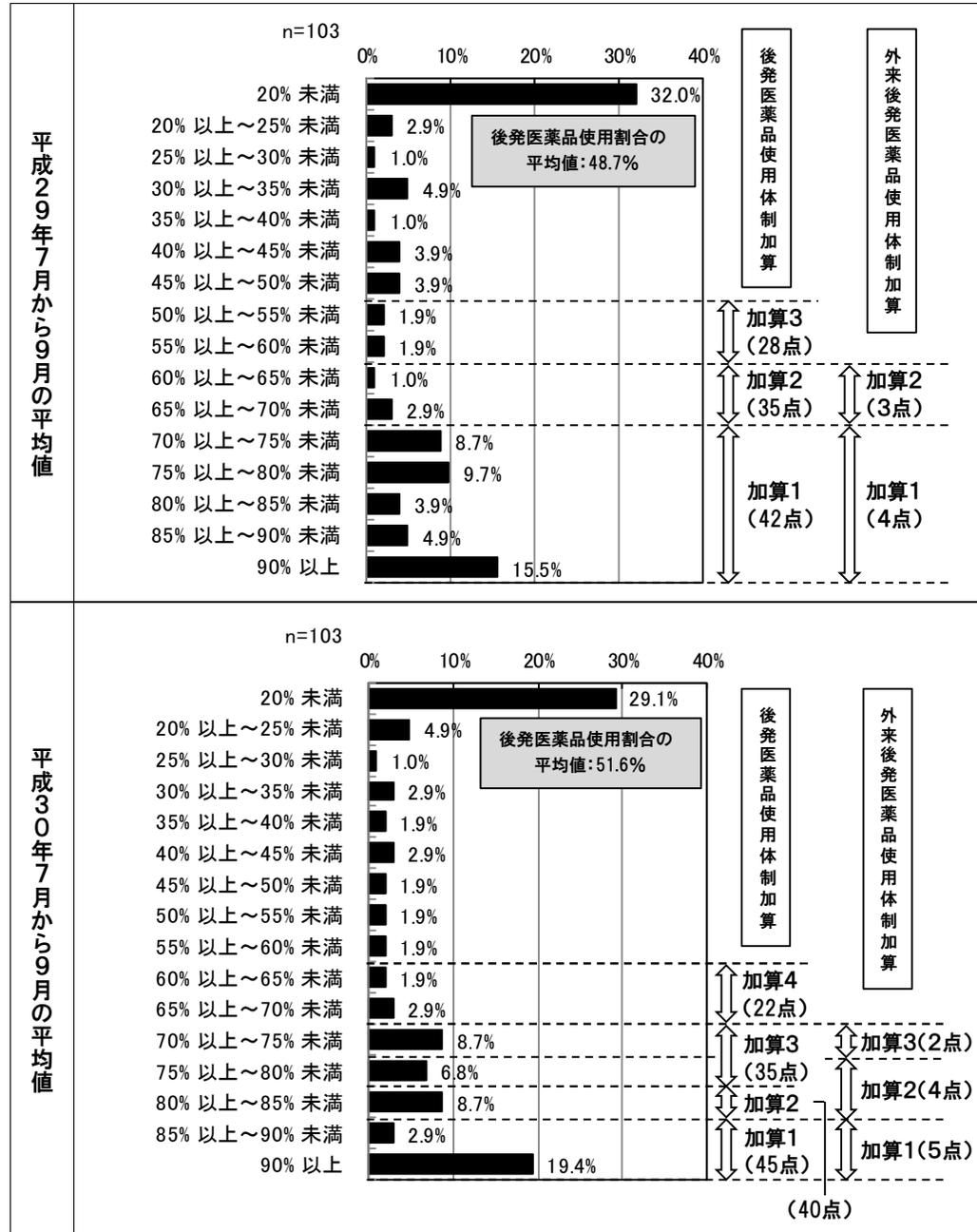
<後発医薬品使用割合①> (報告書p109)

診療所

- 診療所における後発医薬品の使用割合は48.7%から51.6%に2.9ポイント増加した。
- 診療所において、現在の加算対象の下限である60%以上の診療所の割合は46.6%から51.5%まで4.9ポイント増加した。
- 「90%以上」は前年よりも3.9ポイント高かった。

図表 143 (参考)後発医薬品使用割合と後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算の算定基準との関係

(注)本表は、有床診療所及び無床診療所(院内処方95%以上の場合のみ)に対して、外来、入院の区別なく、後発医薬品の使用割合を尋ねたもの。このため、表中の後発医薬品の使用割合は、後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算との関係性を厳密に示したものとなっていない。



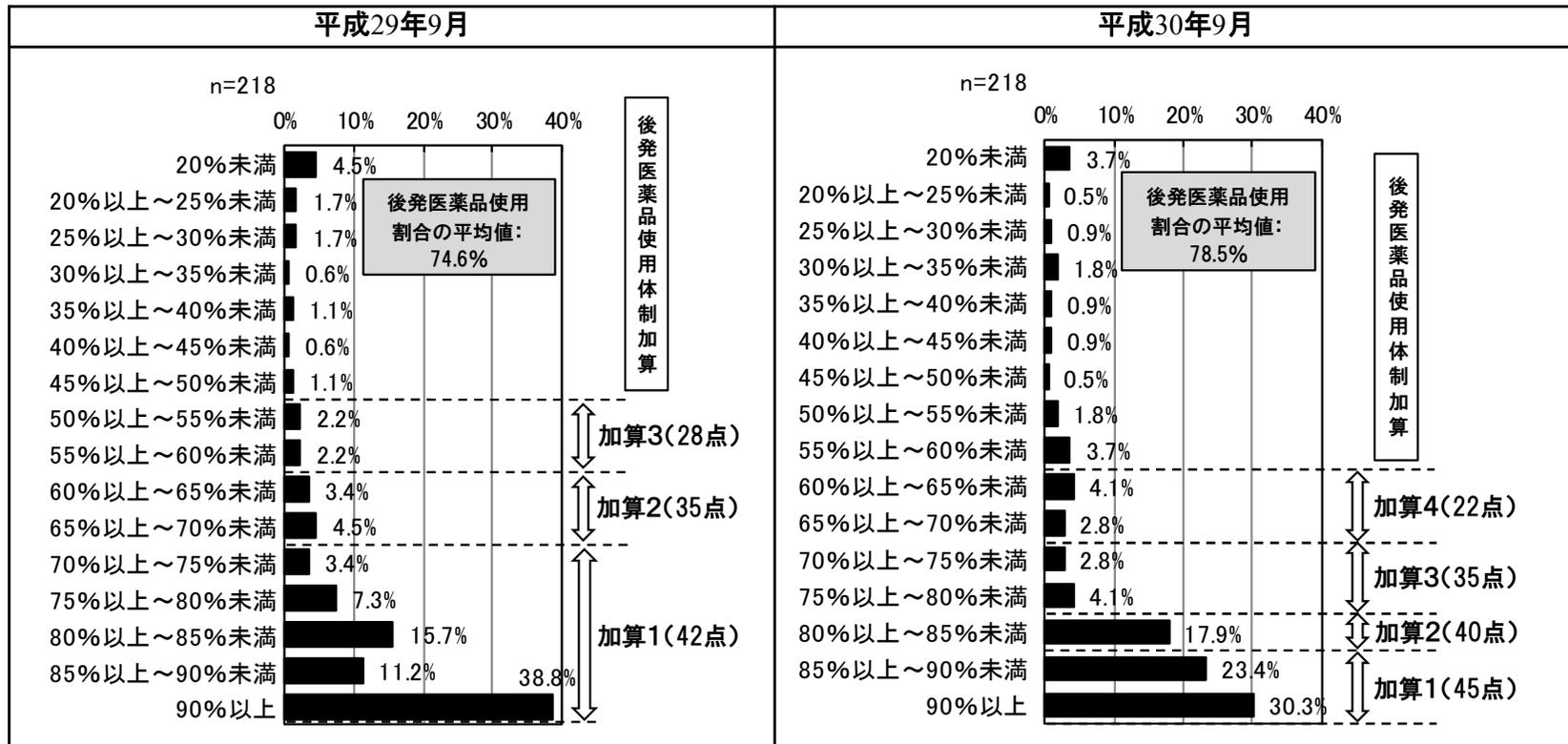
施設調査(医療機関)の結果②

病院

<後発医薬品使用割合①>(報告書p112)

- 病院における後発医薬品の使用割合は74.6%から78.5%に3.9ポイント増加した。
- 病院において、現在の加算対象の下限である60%以上の病院の割合は84.3%から85.3%まで1.0ポイント増加した。
- 「75%以上～80%未満」、「80%以上～85%未満」は前年よりもそれぞれ2.2ポイント、12.2ポイント高かった。

図表 148 (参考)後発医薬品使用割合と後発医薬品使用体制加算の算定基準との関係



(注)本表は、外来、入院の区別なく、後発医薬品の使用割合を尋ねたもの。このため、表中の後発医薬品の使用割合は、後発医薬品使用体制加算との関係性を厳密に示したものとなっていない。

施設調査(医療機関)の結果③

＜医薬品の備蓄状況等①＞(報告書p91、92)

診療所

診療所において、後発医薬品の備蓄品目数は平均47.0品目から平均49.8品目に増加した。

図表 123 診療所における医薬品の備蓄状況等(n=76)

| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|-----------------|-------------|-------------|-----------|
| 1. 医薬品備蓄品目数(品目) | | | |
| ①全医薬品 | 164.9 | 150.4 | 116.5 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 49.8 | 51.2 | 31.5 |
| ③②のうち、バイオ後続品 | 0.6 | 2.7 | 0.0 |
| ④後発医薬品割合(②/①) | 30.2% | | 27.0% |
| 2. 調剤用医薬品購入額(円) | | | |
| ①全医薬品 | 1,528,265.0 | 1,923,127.5 | 823,537.8 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 327,369.8 | 543,668.8 | 172,841.7 |
| ③後発医薬品割合(②/①) | 21.4% | | 21.0% |
| 3. 調剤用医薬品廃棄額(円) | | | |
| ①全医薬品 | 3,856.9 | 9,405.0 | 0.0 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 614.7 | 1,724.8 | 0.0 |
| ③後発医薬品割合(②/①) | 15.9% | | - |

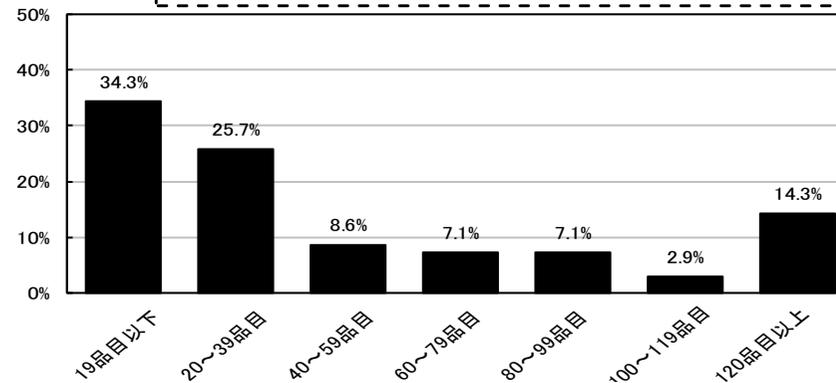
(注)・有床診療所、院外処方が5%未満の無床診療所のうち、医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった76施設を集計対象とした。
 ・「医薬品備蓄品目数」は平成30年10月1日の数値が不明の場合は各施設が把握している平成30年度の直近の数値、「調剤用医薬品購入金額」、「調剤用医薬品廃棄額」は平成30年4月～9月の平均金額とした。

(参考)平成29年度調査

| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 医薬品備蓄品目数(品目) | | | |
| ①全医薬品 | 159.1 | 123.9 | 130.0 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 47.0 | 66.0 | 25.0 |
| ③②のうち、バイオ後続品 | 0.2 | 1.0 | 0.0 |
| ④後発医薬品割合(②/①) | 29.5% | | 19.2% |
| 2. 調剤用医薬品購入額(円) | | | |
| ①全医薬品 | 1,764,230 | 1,734,340 | 1,400,000 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 445,916 | 823,916 | 173,092 |
| ③後発医薬品割合(②/①) | 25.3% | | 12.4% |
| 3. 調剤用医薬品廃棄額(円) | | | |
| ①全医薬品 | 13,516 | 44,881 | 0 |
| ②①のうち、後発医薬品 | 2,953 | 12,219 | 0 |
| ③後発医薬品割合(②/①) | 21.8% | | - |

(注)・有床診療所、院外処方が5%未満の無床診療所のうち、医薬品備蓄品目数、調剤用医薬品購入額、調剤用医薬品廃棄額について回答のあった123施設を集計対象とした。
 ・「医薬品備蓄品目数」は平成28年9月の数値が不明の場合は各施設が把握している平成28年度の直近の数値、「調剤用医薬品購入金額」、「調剤用医薬品廃棄額」は平成28年9月・月平均額の金額とした。

図表 124 診療所における後発医薬品の備蓄品目数の分布



施設調査(医療機関)の結果④

<医薬品の備蓄状況等②> (報告書p94、95、97)

病院

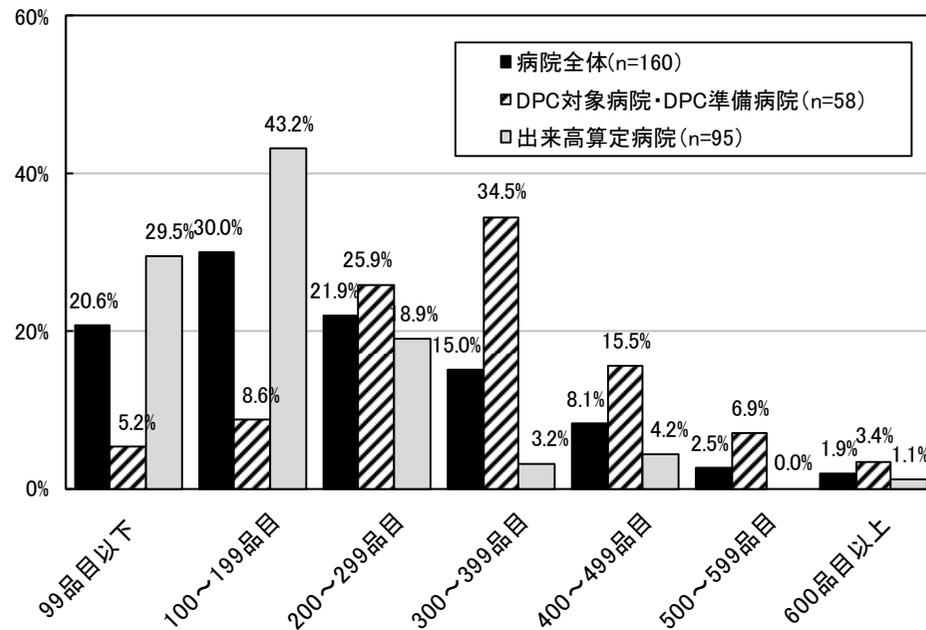
病院において、後発医薬品の備蓄品目数は平均205.3品目から平均225.2品目に増加した。

図表 127 病院における医薬品の備蓄品目数(平成30年10月1日、n=160)

| | | ①全医薬品 | ②うち後発医薬品 | ②/① |
|-----|------|-------|----------|-------|
| 内服薬 | 平均値 | 428.3 | 134.1 | 31.3% |
| | 標準偏差 | 231.7 | 84.2 | 36.3% |
| | 中央値 | 398.5 | 121.0 | 30.4% |
| 外用薬 | 平均値 | 148.3 | 37.2 | 25.1% |
| | 標準偏差 | 94.3 | 31.1 | 33.0% |
| | 中央値 | 121.5 | 31.0 | 25.5% |
| 注射薬 | 平均値 | 244.8 | 53.9 | 22.0% |
| | 標準偏差 | 194.1 | 50.2 | 25.9% |
| | 中央値 | 175.5 | 34.5 | 19.7% |
| 合計 | 平均値 | 821.5 | 225.2 | 27.4% |
| | 標準偏差 | 494.8 | 146.6 | 29.6% |
| | 中央値 | 676.5 | 194.0 | 28.7% |

(注)内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった160施設を集計対象とした。

図表 130 病院における後発医薬品の備蓄品目数の分布(DPC対応状況別、平成30年10月1日)



(参考)平成29年度調査

| | | ①全医薬品 | ②うち後発医薬品 | ②/① |
|-----|------|-------|----------|-------|
| 内服薬 | 平均値 | 443.7 | 117.4 | 26.5% |
| | 標準偏差 | 233.5 | 71.6 | |
| | 中央値 | 400.0 | | |
| 外用薬 | 平均値 | 153.4 | 33.0 | 21.5% |
| | 標準偏差 | 94.1 | 22.7 | |
| | 中央値 | 129.0 | 29.0 | 22.5% |
| 注射薬 | 平均値 | 270.1 | 55.0 | 20.4% |
| | 標準偏差 | 202.9 | 46.2 | |
| | 中央値 | 192.0 | 39.0 | 20.3% |
| 合計 | 平均値 | 867.2 | 205.3 | 23.7% |
| | 標準偏差 | 505.0 | 126.0 | |
| | 中央値 | 741.0 | 185.0 | 25.0% |

(注)・平成29年6月末時点

・内服薬、外用薬、注射薬、合計品目について回答のあった301施設を集計対象とした。

施設調査(医療機関)の結果⑤

＜医薬品の備蓄状況等③＞(報告書p96、97、98)

- 53.8%の病院でバイオ後続品を備蓄していた。
- バイオ後続品を備蓄する病院では平均2.7品目を備蓄していた。

図表 129 病院におけるバイオ後続品の備蓄品目数
(DPC対応状況別、平成30年10月1日) (単位:品目)

| | 施設数(件) | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|-----------------|--------|-----|------|-----|
| 全体 | 160 | 1.4 | 2.4 | 1 |
| DPC対象病院・DPC準備病院 | 58 | 2.9 | 3.2 | 2.0 |
| 出来高算定病院 | 95 | 0.6 | 1.0 | 0 |

(参考)平成29年度調査 (単位:品目)

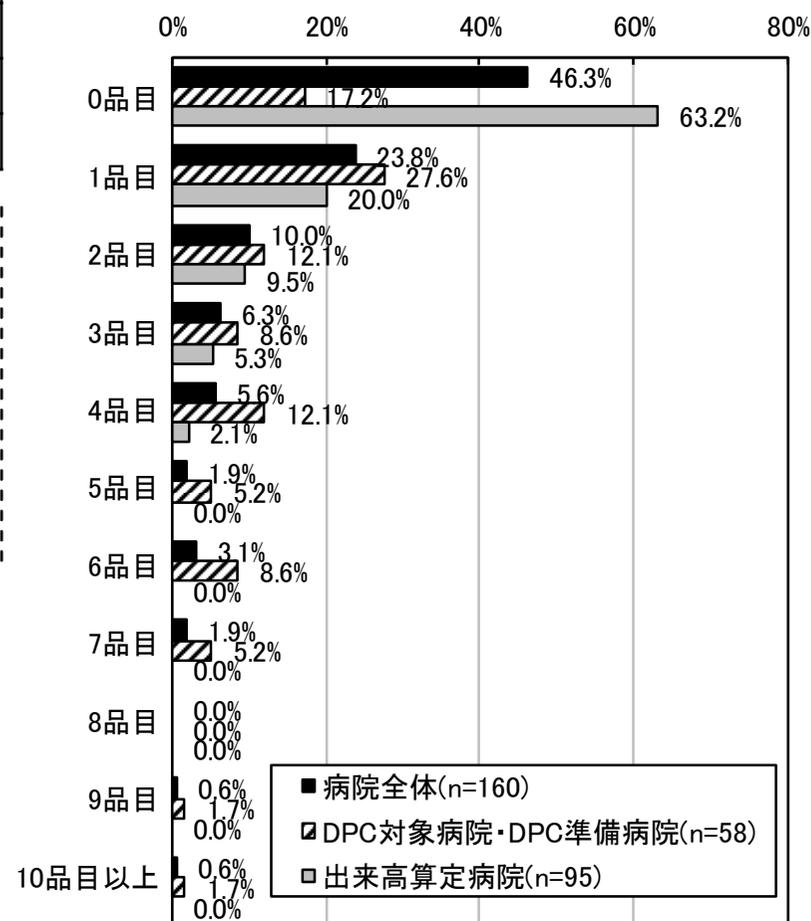
| | 施設数(件) | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
|------------------|--------|-----|------|-----|
| 全体 | 301 | 0.9 | 1.5 | 0 |
| DPC 対象病院・DPC準備病院 | 110 | 1.6 | 1.5 | 1.5 |
| 出来高算定病院 | 191 | 0.5 | 1.3 | 0 |

図表 132 バイオ後続品の備蓄品目数(1品目以上の備蓄がある病院に限定)

| | バイオ後続品の品目数(品目) | | |
|------------------------|----------------|------|-----|
| | 平均値 | 標準偏差 | 中央値 |
| 病院全体(n=86) | 2.7 | 2.7 | 2.0 |
| DPC 対象病院・DPC準備病院(n=48) | 3.5 | 3.2 | 3.0 |
| 出来高算定病院(n=35) | 1.7 | 0.9 | 1.0 |

(注)バイオ後続品の備蓄品目数について1品目以上であると回答のあった施設を集計対象とした。

図表 131 病院におけるバイオ後続品の備蓄品目数の分布(DPC対応状況別、平成30年10月1日)

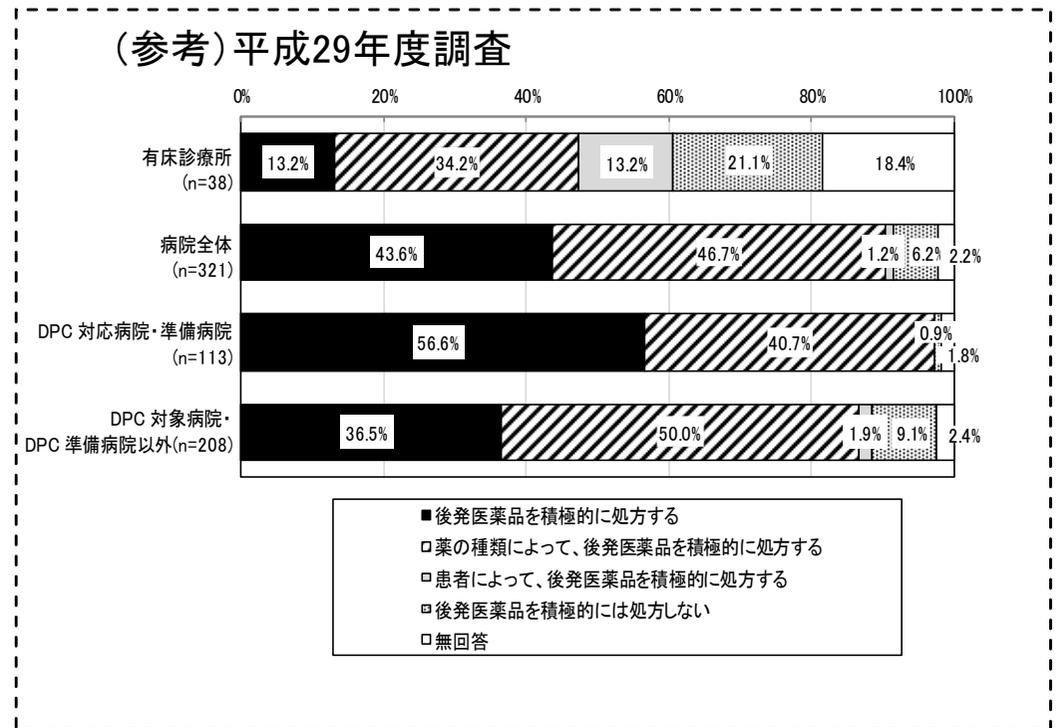
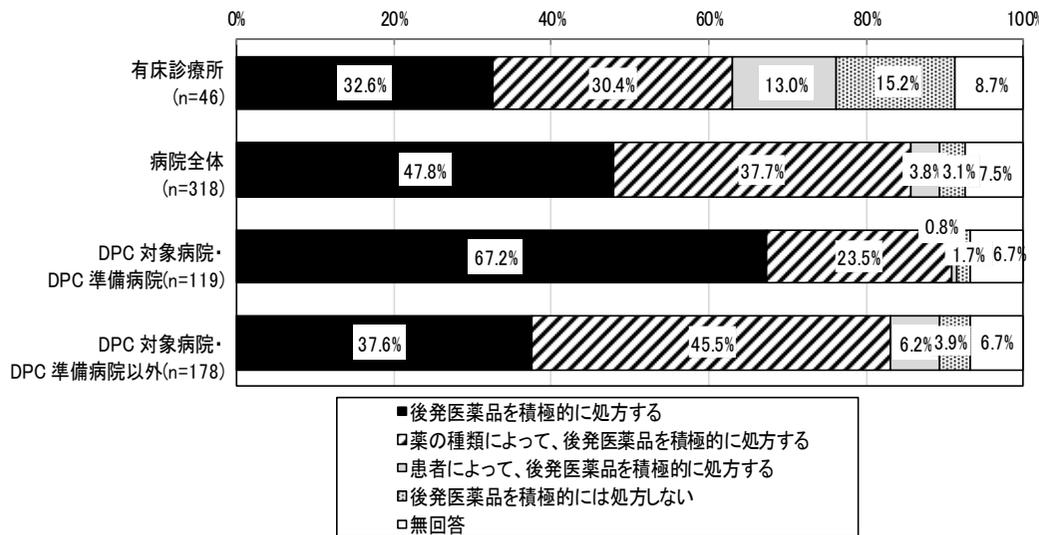


施設調査(医療機関)の結果⑥

＜入院患者に対する後発医薬品の使用状況＞（報告書p122、123）

入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、「後発医薬品を積極的に処方する」は有床診療所で32.6%、病院では47.8%であった。

図表 160 入院患者に対する後発医薬品の使用状況(単数回答)



施設調査(医療機関)の結果⑦

＜先発医薬品の銘柄指定＞(報告書p144)

先発医薬品の銘柄を指定して変更不可にする理由としては、診療所医師、病院医師ともに「患者からの希望があるから」(診療所医師68.5%、病院医師71.2%)が最も多く、次いで「後発医薬品の品質や医学的な理由(効果や副作用)に疑問があるから」(診療所医師45.3%、病院医師42.9%)であった。

図表 185 先発医薬品を指定する場合の理由
(平成30年4月以降「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答)

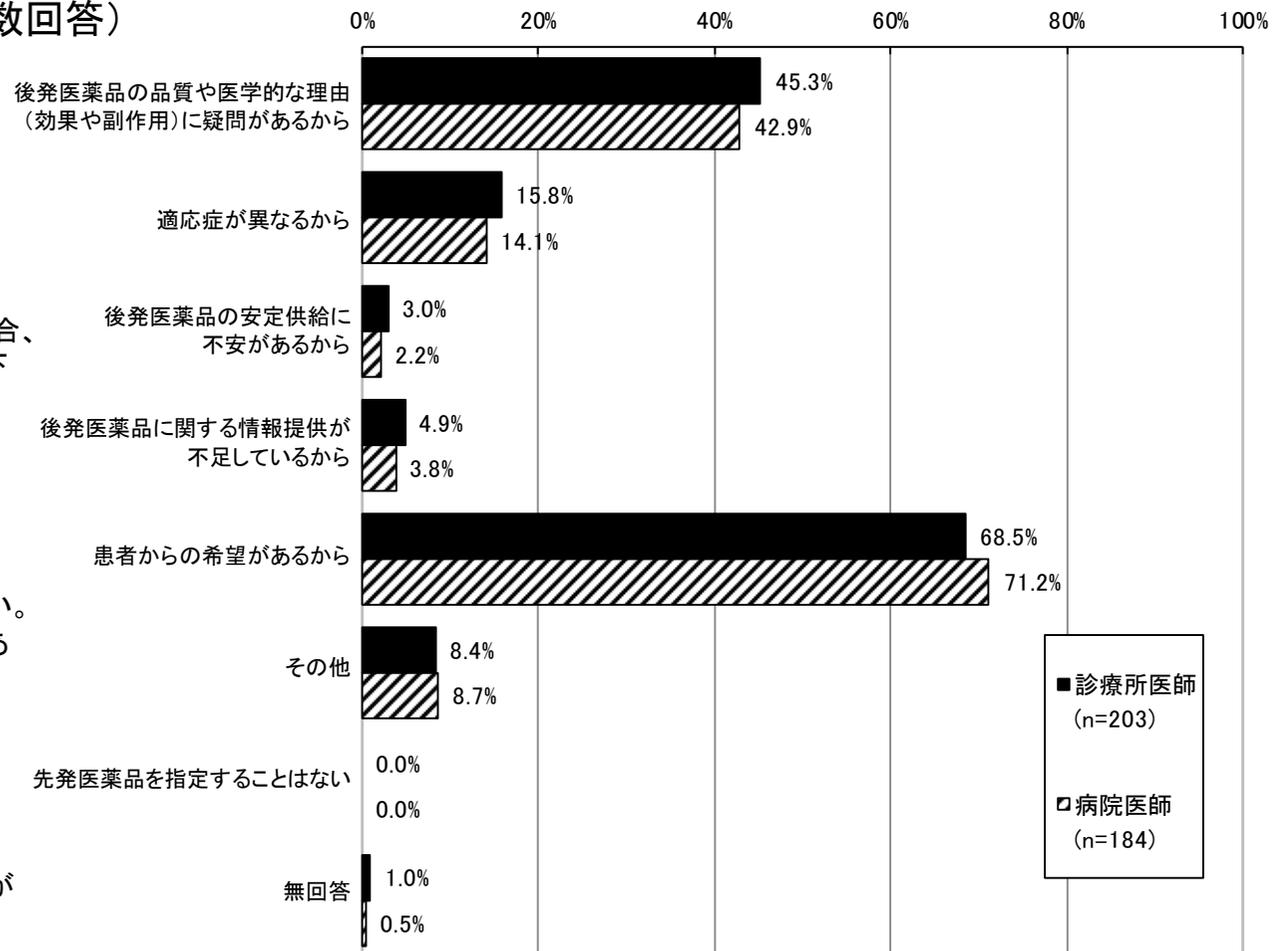
注1)「後発医薬品に関する情報提供が不足しているから」を選択した場合、「不足している情報」の内容として挙げられたもののうち、主なものは以下の通り。

診療所医師

- ・製品の安全性の経過報告がない。
- ・先発・後発での術後における合併症の差
- ・先発との効能の比較
- ・添加物、配合物、効能、効果のデータ、副作用のデータ
- ・点眼薬の場合、防腐剤の濃度など、先発品と後発品が全く同じではない。
- ・点鼻薬の容器の形状が痛みを伴ったり、除法薬の体内動態に不安がある。

病院医師

- ・安全性、品質。
- ・効果など副作用情報。
- ・全く情報がない。有害事象発生時の連絡先も不明。
- ・全く情報が入ってこない。後発医薬品メーカーは薬局には足しげく通うが病院には皆無。



施設調査(医療機関)の結果⑧

＜後発医薬品の銘柄指定＞（報告書p148）

後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由についてみると、診療所医師、病院医師ともに「後発医薬品の中でより信頼できるものを選択して処方すべきと考えているから」（診療所医師32.5%、病院医師27.2%）が最も多かった。また、「後発医薬品の銘柄を指定することはない」が診療所医師では31.0%、病院医師では21.7%であった。

図表 189 後発医薬品の銘柄を指定する場合の理由
（平成30年4月以降、「変更不可」欄にチェックした経験のある医師、医師ベース、複数回答）

（注1）「上記以外の理由で後発医薬品の銘柄を指定する必要があるため」を選択した場合、理由として挙げられた内容のうち、主なものは以下の通り。

診療所医師

- ・一般名処方するとヒルドイドローションとビーソフテンローションの区別ができず、ビーソフテンローションは指定しています。
- ・薬を説明する時にものを特定しないとわからないから。
- ・主成分は同じだが、点眼薬の防腐剤がフリーで角膜に対しての安全性が高いため。
- ・添加物が少ない後発医薬品を指定したいから。
- ・近隣薬局に採用されていないものが多いため。

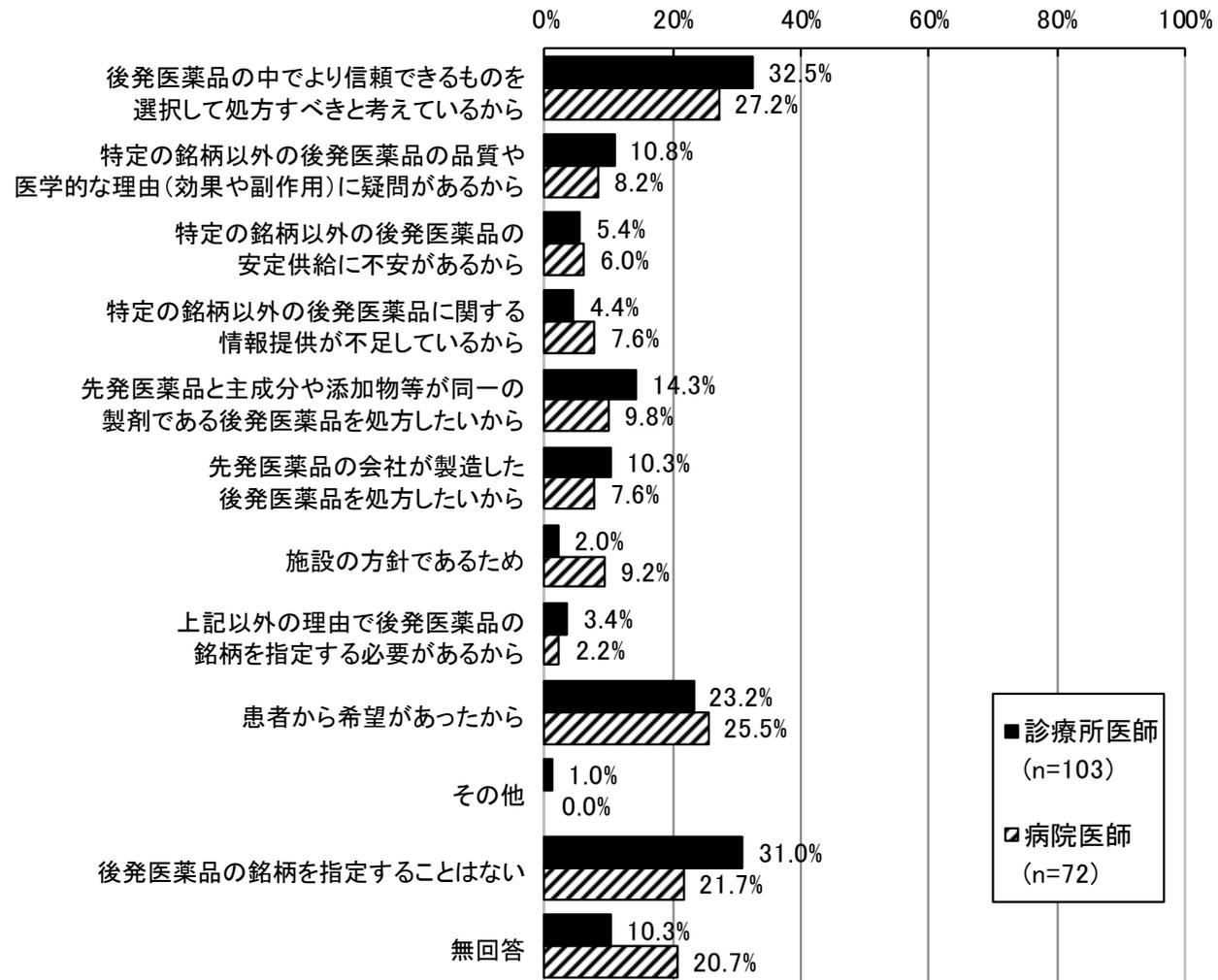
病院医師：回答はなかった。

注2）「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

診療所医師

- ・院外薬局からの要望。
- ・薬局の在庫の都合。

病院医師：回答はなかった。

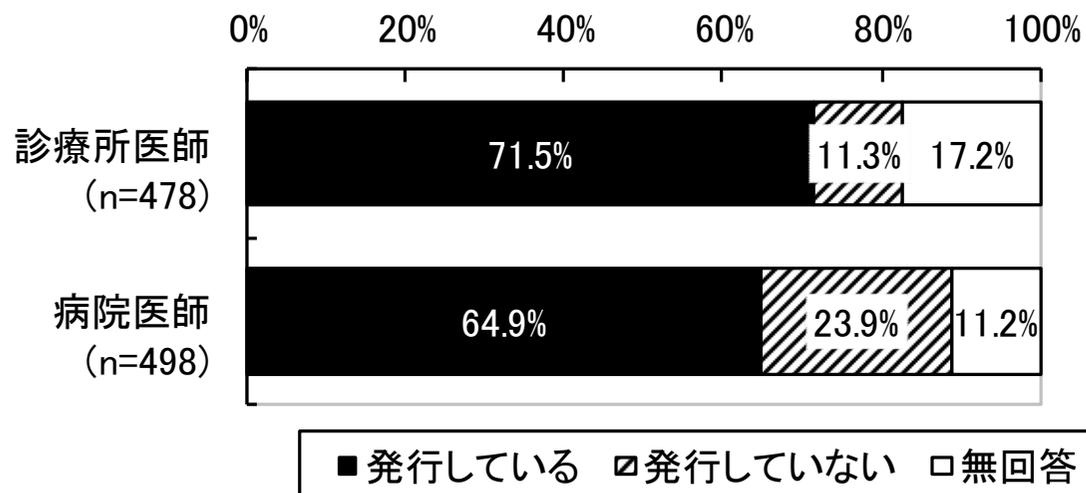


施設調査(医療機関)の結果⑨

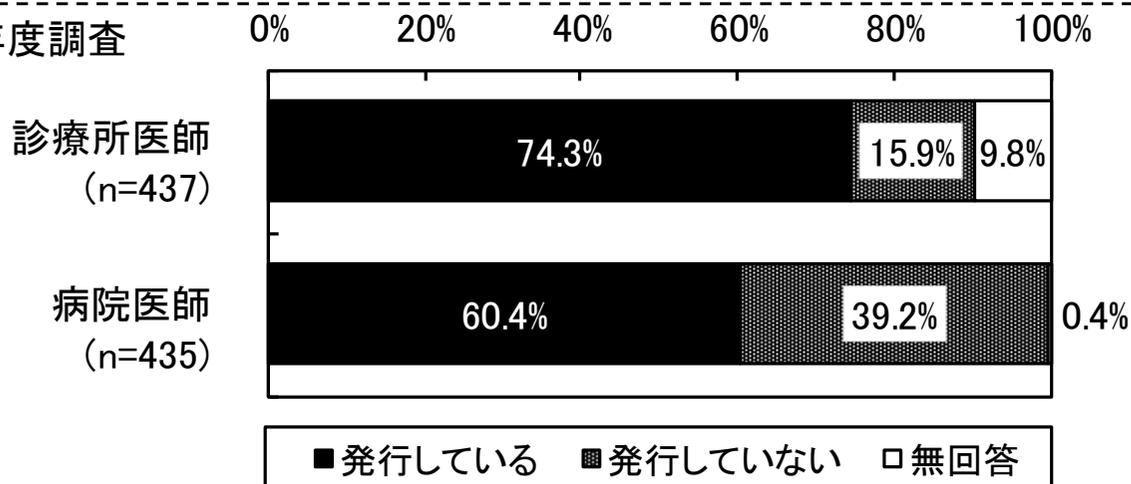
＜一般名処方による処方せん発行の有無＞（報告書p153）

一般名処方による処方箋を発行している医師は、診療所で71.5%、病院で64.9%であった。

図表 193 一般名処方による処方箋発行の有無(医師ベース、単数回答)



(参考)平成29年度調査

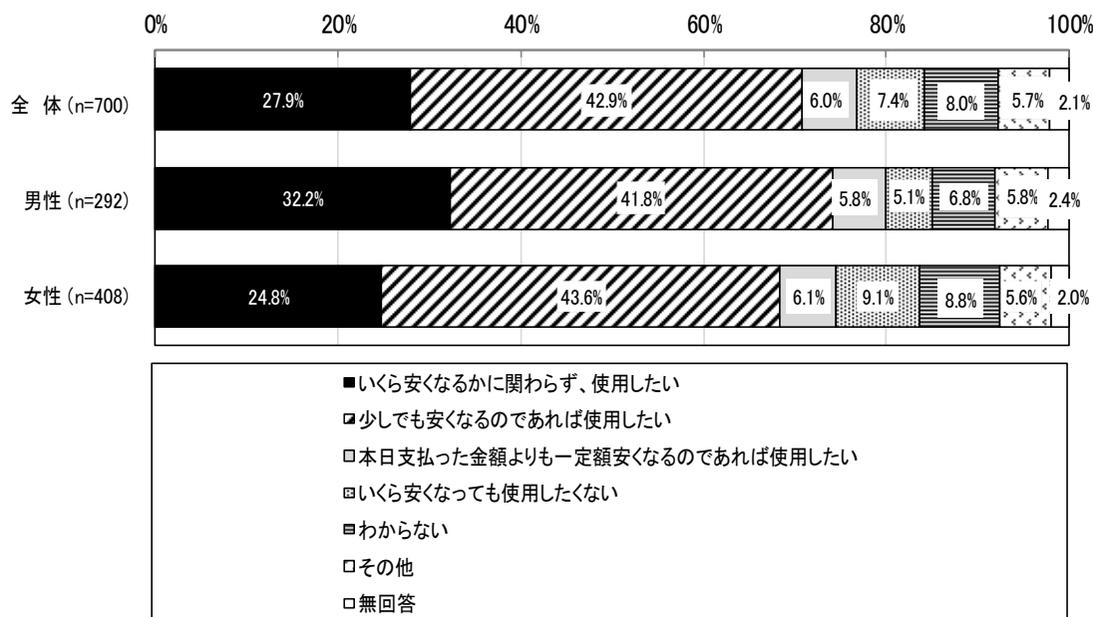


患者調査の結果①

＜ジェネリック医薬品に関する使用意向＞（報告書p193）

医療費の自己負担があった人に対して、ジェネリック医薬品に関する使用意向を尋ねたところ、「少しでも安くなるのであれば使用したい」が42.9%と最も多く、次いで「いくら安くなるかに関わらず、使用したい」が27.9%であった。

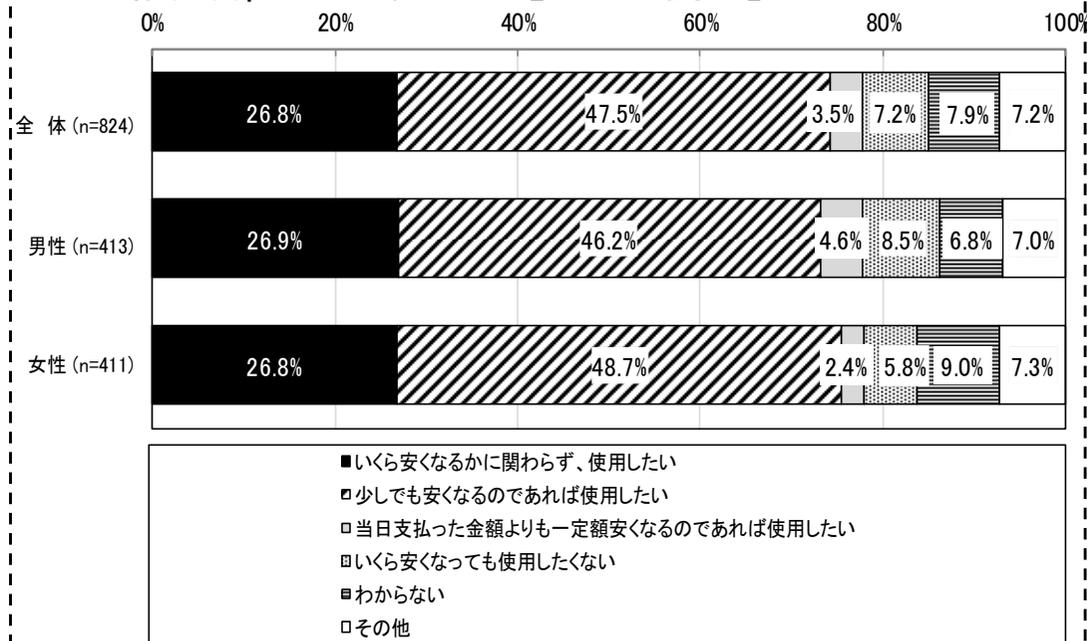
図表 244 ジェネリック医薬品に関する使用意向（自己負担との関係）
（医療費の自己負担があった人、男女別、単数回答）



（注）「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。
 ・既にジェネリック医薬品を使用している。
 ・品質の良いものであれば使用したい。
 ・薬による

＜参考＞

（報告書p245）図表 313 【同WEB調査】



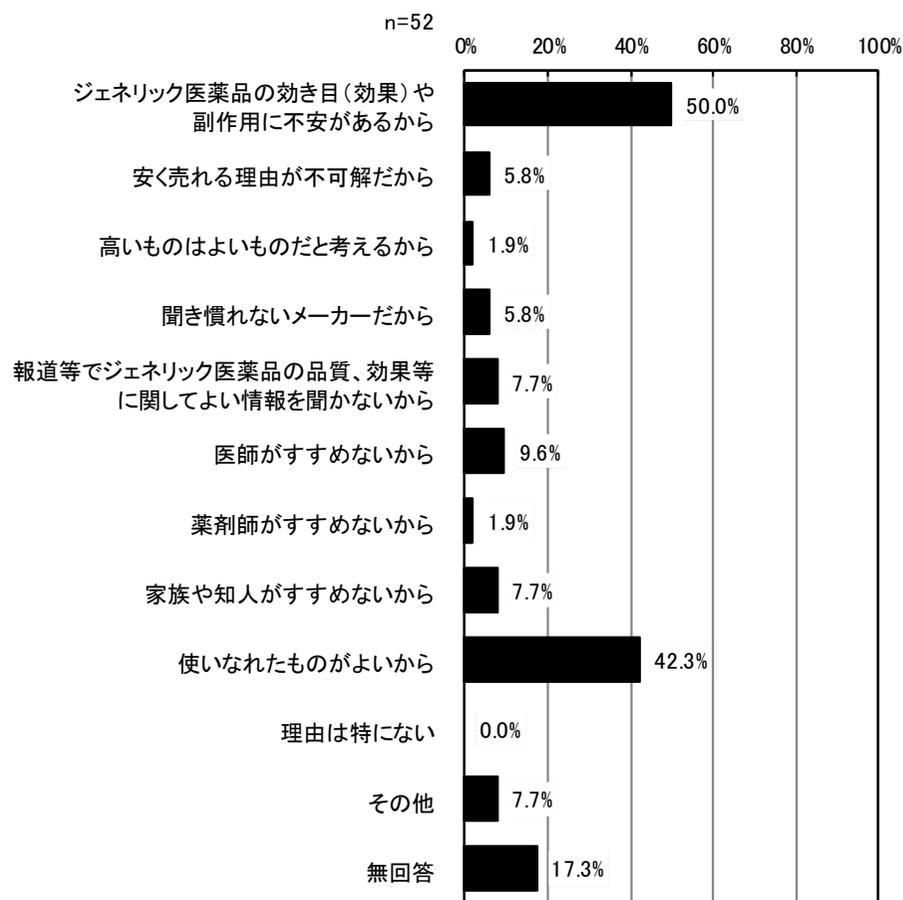
（注）「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。
 ・既にジェネリック医薬品を使用している。
 ・薬による

患者調査の結果②

＜いくら安くなっても使用したくない理由＞（報告書p195）

「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人に対して、ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由を尋ねたところ、「ジェネリック医薬品の効き目（効果）や副作用に不安があるから」が50.0%で最も多く、次いで「使いなれたものがよいから」（42.3%）であった。

図表 248ジェネリック医薬品がいくら安くなっても使用したくない理由（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答）

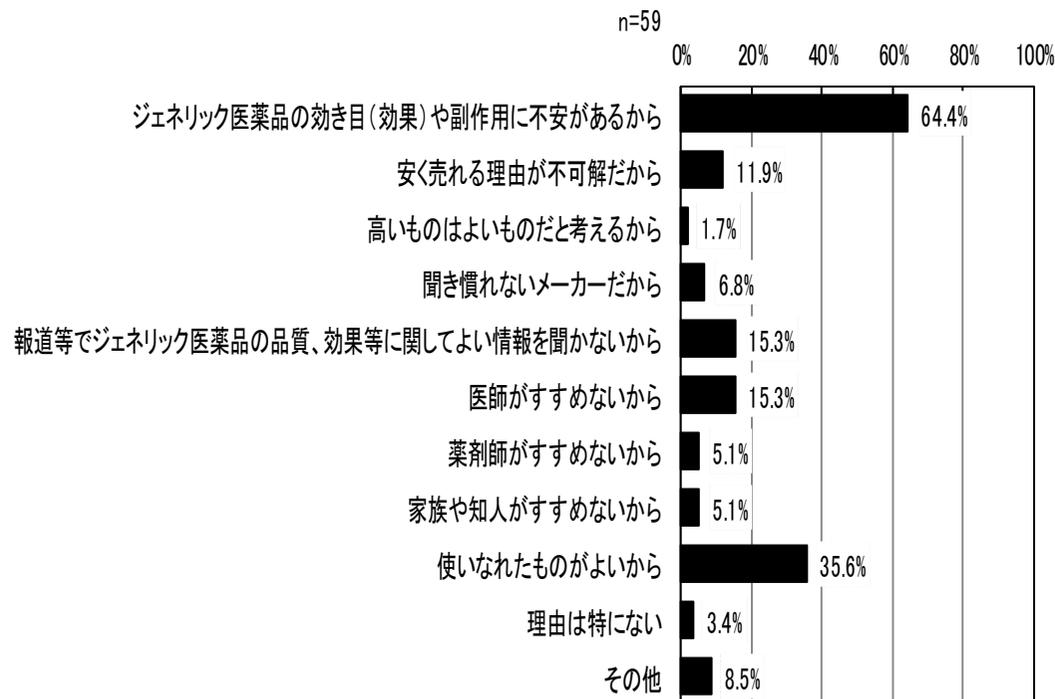


（注）「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

- ・貼り薬ははがれやすいと思うから。
- ・同じ効果と言ってもメーカーによって味や型も違い、胃や腸で溶けにくい、溶けやすいなど製法によってかなり異なり、患者にそこまで説明するのは窓口の短い時間では無理だから。

＜参考＞

（報告書p247）図表 316 【同WEB調査】



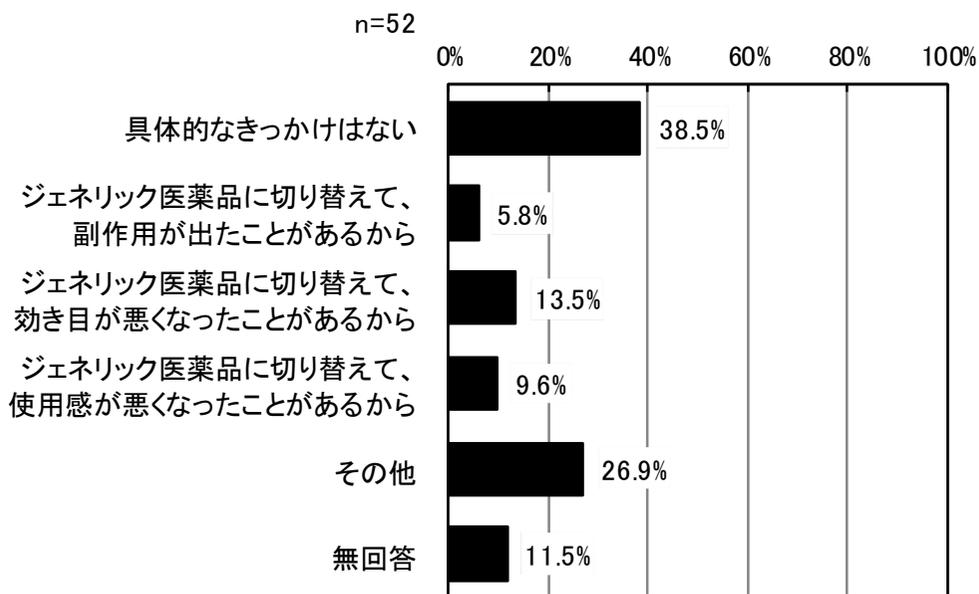
（注）「その他」の内容として、「ジェネリックのことについて不安になる報道があったから」、「効果が異なるから」等が挙げられた。

患者調査の結果③

＜効き目や副作用に不安を感じたきっかけ＞（報告書p196）

「ジェネリック医薬品の効き目や副作用に不安があるから」と回答した患者に、そのきっかけについて尋ねたところ、「効き目が悪くなったことがある」が13.5%、「使用感が悪くなったことがある」が9.6%であった。

図表 249 ジェネリック医薬品を使用したくないと思った具体的なきっかけ
（「いくら安くなっても使用したくない」と回答した人、複数回答）



注)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の内容のうち、主なものは以下の通り。

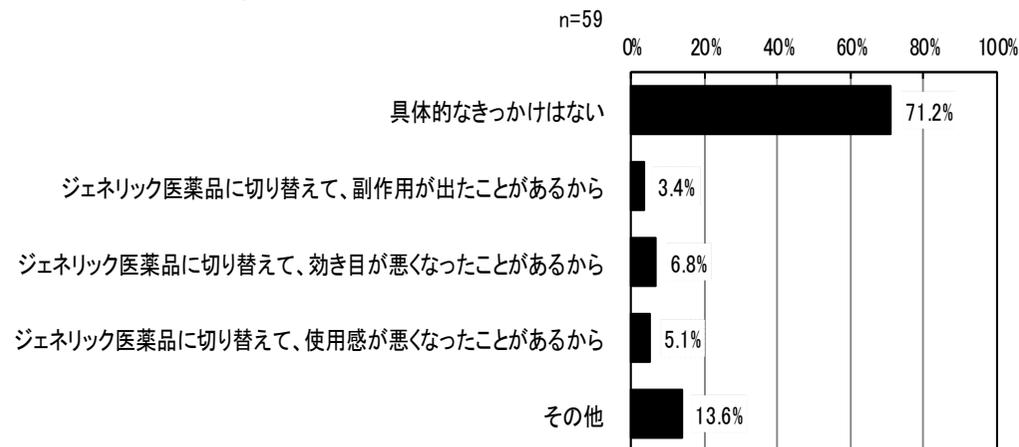
- ・薬疹が出た。
- ・湿疹が出た。

注)「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の内容のうち、主なものは以下の通り。

- ・血圧が上がったから。
- ・胃薬を変えて効果が薄れたため。
- ・症状が長引き治りが悪かったため。

＜参考＞

（報告書p248）図表 317 【同WEB調査】



注)「ジェネリック医薬品に切り替えて、副作用が出たことがあるから」の内容のうち、主なものは「口唇と指の発疹・水ぶくれ」、「皮膚のかゆみ」であった。

注)「ジェネリック医薬品に切り替えて、効き目が悪くなったことがあるから」の内容のうち、主なものは目薬、風邪薬であった。

注)「ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が悪くなったことがあるから」の内容のうち、主なものは「痛み止めが溶けていた」であった。

注)「その他」の内容のうち、主なものは以下の通り。

- ・100%同じではないから。
- ・先発品からジェネリックに変えて具合が悪くなった人を複数人知っているから。
- ・友人がジェネリック医薬品で副作用が出た事があるため。